

事業常任委員会 鳥取県境港水産事務所視察概要

境漁港は全国でも上位の水揚げ基地であり、水揚げ量は１１万５千トンで５位、水揚げ金額は２１７億円で６位である。水揚げされる魚種はサバ、マイワシ、アジ、ベニズワイガニ、クロマグロなどで、特にカニとクロマグロの水揚げ量は日本一である。

境漁港は高度衛生管理型市場として、平成２８年から新築・改修工事を行っている。令和元年６月より順次供用を開始し、全体の工事完了は令和５年予定である。国内のみならず海外への輸出も視野に入れた漁港として、安心・安全な水産物を提供できる施設を目指している。

鳥取県営境港水産物地方卸売市場については、開設者が鳥取県、管理者が鳥取県境港水産事務所と境港水産物市場管理（株）である。境港水産物市場管理（株）は指定管理者であり、期間は平成３１年４月１日から令和６年３月３１日までの５年間である。卸売人は、境港魚市場（株）、鳥取県漁業協同組合境港支所販売部、漁業協同組合ＪＦしまね境港支所の３者である。

境港市内の食料品関係の事業所数は計４４、従業者数は計２，２３７人であるが、その内、水産製造関係の事業所数は計２９、従業者数は計１，４３１人となっており、水産業関連で多くの雇用を生み出している。

輸出拡大に向けた取り組みとしては、荷受、仲買、加工業者等で構成する鳥取県境港水産物輸出入促進協議会が各種取り組みを行っており、海外での物産展や調査、バイヤーとの意見交換などを実施している。また、漁獲証明書の発行も行っている。

その他の水産団体の取り組みとしては様々なものがあるが、境港水産まつり（（一社）境港水産振興協会）、境港まぐろ感謝祭（境港天然本マグロＰＲ推進協議会）、境港カニ感謝祭（境港カニ水揚げ日本一ＰＲ実行委員会）はさかいみなと三大水産まつりとなっており、魚食の普及・啓発のための活動を行っている。また、境港市では保育園・幼稚園や小学校で食育活動を行っており、地場産物を積極的に使用したり、外部講師を招いて授業を行ったりするなど、水産事務所と各種団体が連携・協力し、水産業の振興、食育・魚食普及に取り組んでいる。

事業常任委員会 島根県松江市視察概要

松江城は、平成２７年に国宝に指定され、観光面でも大きな効果を生み出している。観光入込客数では、目標とする１，０００万人を平成２７年・２８年と連続して上回り、２８年は過去最高を記録した。

管理は指定管理事業者に任せており、昨年度より（株）山陰中央新報社（地元新聞社）を管理事業者として指定している。

３月２４日から４月１５日までの間、管理事業者が主催でお城まつりを開催。開催期間中、連日イベントを実施しているが、具体的な内容としては、以前から行われているイベントの内容を充実させながら継続して実施。その中でオープニングイベントの「国宝松江城リレーマラソン」は、今年初めての実施であり、企画主催は指定管理者が担っている。１４７チーム１，０８３人が参加した。イベント全体の費用は、指定管理料の事業費と松江城リレーマラソンの参加料で運営。費用総額は、約３３０万円だった（松江城リレーマラソンを除く）。桜の開花時期も重なり、土日はもちろん、平日でも多くの来客でにぎわっている。

９月～１０月の夜にはナイトタイムエコノミーの取り組みとして、松江城周辺をライトアップする「松江水燈路」を（一社）松江観光協会と松江市が主催、メイン開催日（土日祝）には堀川遊覧船の夜間運行を行っている。その他にも、地元飲食店が中心となって参加する「水燈路宵屋台」を開催、大手前駐車場に屋台が立ち並び、まるで祭り会場のようになり盛り上がる。松江駅から無料シャトルバスの運行や、周辺駐車場の無料開放なども行い、市内外の集客に努めている。

宿泊客数は、２１０万人前後で堅調に推移しているが、さらなる増加を目指し、都市圏へのプロモーションはもとより、玉造温泉や松江しんじ湖温泉など宿泊エリアの魅力向上をはじめ、水燈路などライトアップの充実に取り組んでいくことを総合計画の中で策定している。

一方、外国人観光客は、韓国・台湾・香港市場をアジアの重点地域とし、欧米では日本文化に関心が高いと言われるフランスをターゲットにプロモーションを展開。知名度は低いですが、徐々に増加傾向にある。

今後は、松江城を中心に、不昧公の茶の湯文化やホーランエンヤなど多彩な資源を生かした観光地づくりを一層進めていくことが重要と考えている。